

親愛なる受け入れ機関の皆様、次官 PY Caunan、MWO-Osaka 役員、フィリピン人材派遣会社の代表者の皆様、おはようございます。

COVID-19 のパンデミックは、ほぼ全世界を停止させ、個人や政府の認識や視点に変化をもたらしました。ほぼ一晩で私たちはバーチャル化し、会議やビジネスはオンラインで行われるようになりました。しかし、パンデミックの間でもずっと変わらないことが1つあります。それは人的資源の必要性です。パンデミックは外国人労働者の派遣に影響を与えましたが、フィリピンは受け入れ国との緊密な協調と協力により、労働者の適時かつ安全な派遣を確保するために取り組みました。そしてパンデミックの間、更に労働者の福利厚生を強化および促進するために、フィリピンは移民労働者省法としても知られる共和国法第 11641 を可決しました。この法律により、以前は外務省、労働雇用省、社会福祉開発省の下でフィリピン海外雇用プログラムに参与していたすべての事務所と機関が、移民労働者省として一つに統合されました。

現在パンデミックは減速しており、世界は回復しつつあります。世界銀行の言葉を引用すると、フィリピンは今後数年で上位中産階級になる軌道に戻りつつあります。日本に関して言えば、国の成長と回復について多くの朗報があります。また、コロナをインフルエンザなどの一般的な感染症のカテゴリーに格下げする計画もあります。

今こそが成長の機会を模索し、すでに実施されている強力なプロセスを継続する適切な時期であります。

フィリピン海外労働部 (POLO) は、フィリピン海外労働者事務所 (MWO) として、新しい省の下で引き続き奉仕致します。単なる組織名変更ではなく、さまざまな形でフィリピン国籍労働者や利害関係者のニーズに responding していきます。

まず1つ目は、認定プロセスが簡素化されました。以前は POLO で認証を行い、その後は POEA の認定を受けるために書類をフィリピンに郵送する必要がありましたが、現在はフィリピン海外労働者事務所にて直接認定されることとなりました。

2つ目は、デジタル化への段階的な移行です。MWO は、登録のために、認定後 24 時間以内に認定証明書と求人依頼書を DMW に送信するように指示されています。プロセスをデジタルチャネルに合わせて近代化/進化/革新することを目指しており、近い将来、さらに多くの革新が行われるでしょう。実際、これは BBM 大統領の指示、つまり OFW 向けのデジタルサービスを「最優先事項」にすることと一致しています。

また MWO は、雇用主の要求に応えるために申請書類を簡素化しました。申請書類が大量/多すぎるというお声に対し、提出書類を協定書または委任状、業務請負契約書、求人依頼書と基礎となる雇用契約書の4つに簡素化しました。

フィリピン人労働者を雇用する際の労働関係書類の長いプロセスをご心配するお声に対し、MWO-Osaka の Web サイトに労務関係書類ガイドからダウンロード可能なフォームまで、全面的に日本語訳を用意し、言葉の壁がなくなり、誰もが同じ認識をお持ち頂けるように簡素化に努めました。

フィリピン人労働者を雇う際の高額な人件費をご心配するお声に対してお伝えしたいことは、最初は多少費用がかかるかもしれませんが、代わりに多くのメリットを得ることができます。経験を取得している労働者を雇用することとなり、そして MWO が受け入れ企業様とフィリピン人労働者のあらゆる懸念を支援します。

フィリピン国籍労働者が誠実であることを保証します-勤勉で、礼儀正しく、機知に富んでいる-これらはすべて、フィリピン人と日本人が共有し、大切にしている共通の価値観です。労働者は労働契約に尽力し、より良い賃金を求め他の仕事を探すために失踪しません。

私は移民労働者省とし、フィリピン海外労働者事務所(旧 POLO)に、海外に派遣されている労働者の利益を確実に保護し、そこですでに働いている人々の福祉を定期的に監視するように指示しております。

書類の簡素化とプロセスサイクルタイムの最大 10 日間の短縮は、ほんの始まりに過ぎません。「政府内の OFW の本拠地」を実現させるために、本日再確認されたパートナーシップとコミットメントを継続し、新しい省の下でさらに OFW の権利の保護と福祉の促進を現実化させ、パートナーである皆様への継続的な支援を努めてまいります。

心より感謝申し上げます。マブハイ!